

第 440 回 狛江市行財政改革推進本部会議会議録

1 日 時 令和8年9月 29 日(火)午前8時 53 分～9 時02分

2 場 所 市長公室

3 出席者 本部長 松原市長

副本部長 柏原教育長

本部員 富田企画財政部長

本部員 田部井総務部長

本部員 上田市民部長

本部員 秋山地域文化スポーツ部長

本部員 宗像福祉保健部長

本部員 鈴木子ども家庭部長

本部員 一瀬環境部長

本部員 竹之下都市建設部長

本部員 波瀬教育部長

本部員 片岡議会事務局長

4 事務局 杉田政策室長 中村企画調整担当主査

5 欠席者

6 議 題 1 令和8年度狛江市基本計画推進委員会提言書について

7 会議概要

本 部 長 それでは、「1 令和8年度狛江市基本計画推進委員会提言書について」説明をお願いします。

事 務 局 「令和8年度狛江市基本計画推進委員会提言書」について説明する。令和8年度狛江市基本計画推進委員会提言書について、去る9月 28 日に委員長から市長へ答申があった。4ページから8ページの評価対象施策の選定理由等については、6月 23 日に開催された第 437 回の行財政改革推進本部会議にて報告したとおりである。9ページから 12 ページまでの「5 本論」が、各施策に対する委員会からの提言内容となっており、9ページに評価対象施策A「子ども・若者の居場所づくり」について、市が作成した施策評価シートの一部抜粋として、評価対象施策である狛江市後期基本計画で掲げる重点化した方向性の概要、現状と課題、その施策に基づく取組を実施している担当部署、最後に総括として、令和7年度を中心に進めてきた取組の成果、課題を記載しており、10 ページに委員会からの評価対象施策Aに対する提言が記載されている。この「子ども・若者の居場所づくり」に関して、委員会からは、次の 3 点を評価いただいた。1つ目として、ティーンズルームの開設や子どもの権利条例の制定に加え、中高生が意見を言える「サクセンカイギ」を設置し、その意見を運営に反映している点。2つ目として、「ふらっとなんぶ」や「野川のえんがわこまち」のように、民間と連携して空き家を活用した居場所づくりを進めている点。3つ目として、ティーンズルームを支えるサポーターの確保において、近隣大学生や利用者の高校生、プレーワーカーなど多様な担い手を巻き込んでいる点。

一方で、引き続き取組が必要な点としては、次の3点となっている。1つ目として、既存施設の活用による、特に中高生の居場所の更なる確保。2つ目として、通信ツールなども活用した一歩踏み出しにくい子ども・若者への効果的な情報発信。3つ目として、サポーター体制の更なる充実。

11 ページには評価対象施策 B である「都市農業と触れ合う機会の拡充」の施策評価シートの一部抜粋が、12 ページにはこの施策 B に対する提言が記載されている。

「都市農業と触れ合う機会の拡充」については、次の3点が評価された。1つ目として、生産緑地法の改正時に、全国平均を上回る約 99%の農地が特定生産緑地に移行し、農地減少が回避された点。2つ目として、農業経営改善計画書の作成支援や補助などにより、認定農業者数の減少を最小限に抑え、経営基盤を支えている点。3つ目として、農業食育ラリーの実施に加え、令和7年度から市の補助事業とした学童農園の実施により、多くの市民が農家と触れ合う機会が創出されている点。

一方で、引き続き取組が必要な点としては、次の4点となっている。1つ目として、担い手不足への対応として、農業系大学との連携や農福連携の導入など、新たな担い手確保に向けた多様な施策の検討。2つ目として、援農ボランティア制度における、ボランティアと農家の双方にとって負担とならない解決策の検討。3つ目として、農業食育ラリーについては、定員の制約があるため、より多くの市民が参加できるよう運用方法の見直し。最後に、農産物の供給のみならず、防災や景観保全といった農地が持つ多面的な機能について市民への更なる周知を図り、都市農業への理解と関心を高めること。各部署においては、提言内容についての対応等を検討するとともに、今後の取組の見直し及び検討を行う中で、本提言書の活用をお願いする。

今後の予定としては、来年1月を目途に当該提言に対する検討状況・取組をとりまとめ、2月に行財政改革推進本部会議にて審議ののち公表する。対象の各課においては、今年度、取組可能なものについては、検討いただくとともに予算を伴うものに関しては、来年度予算への反映なども踏まえ御検討をお願いする。

最後に、本提言の策定に当たり、資料の作成及び提供等協力いただいた各部署に対し、御礼申し上げます。

本 部 長 今後、本提言内容に基づき、活用できるものについては活用し、施策として展開するものについては予算化も視野に入れて検討してください。今回の委員の構成は、前回と構成が大きく変わり、大学生や女性にも多く参加いただき、多様な視点から議論がなされた。その中で、狛江市がすでに行っている施策を知らないという声も聞かれたということなので、効果的な周知方法を検討してください。委員長からも、小学生、中高校生、大学生の中には情報を取りに来てくれない方もいるとの話があったので、情報の届け方についても各部でも検討してください。それでは、特に質問・意見等なければ、第 440 回狛江市行財政改革推進本部会議を終了する。